



「受験は団体戦」(ドン!)



左は3年次生のRさんが10月26日(金)の日めくり「共通テストまであと79日」用に作成してくれたものです。漫画「ONE PIECE(ワンピース)」好きならすぐにわかりますが、マリンフォード頂上戦争でボロボロにやられ、これまでの「自信」や「強さ」さらには実兄エースを無くし、心折れそうになるも仲間に支えられ主人公ルフィが復活していく場面です。この場面に「受験は団体戦」というひと言を付けてくれるなんて「粋」ですよ。

西高の教員として勤務していて、ここ数年の西高生を見ていると「受験は団体戦」という言葉が実感できます。教室では普段から勉強を教えあっている姿を見かけ、休日も学校に来て勉強し昼休みは一緒に勉強している仲間と談笑し、その後もお互いに勉強時間を決めて集中してやっていく。そして、推薦入試などで年内に進路が決まった生徒も、これから受験を迎える友人と一緒にひたすら勉強している。こんな光景を目にするたびに「西高っていい学校だなあ」と感じます。

コロナ禍の影響もあり、今の小中高校生は不登校が増え、通信制高校の人気の高いという新聞記事を目にします。人との関わりが苦手な児童生徒が増えているということでしょうか。また、わざわざ学校に登校しないで、「自宅で勉強している方が効率良い」なんて考える3年次生が若干いるように思います。しかし、学校という場所は生徒たちが直接関わり合い、互いに磨き合って成長していく場所であると思います。それが受験期であっても変わりはないです。だからこそ甲府西高校は頑張る受験生にとって最良の場所であると確信しています。

さて、ONE PIECEの作者尾田栄一郎氏は任侠モノ好きで有名です。歌舞伎などにも精通し、ONE PIECEにもその雰囲気を取り入れられています。なかでも決めゼリフを言うときに太鼓のお囃子をバックで流すように漫画のコマの中に「ドン!」または「ドドン!」と掲載することが象徴的です。ということで、改めて「受験は団体戦」(ドドン!)です。
3年次主任 平岩岳実

保護者のみなさまへ

いよいよ共通テストまで50日を切り、今週から各クラスの担任による出願面談が行われます。この面談では「共通テスト利用私大入試の出願について」「私大一般入試出願について」および「国公立大学出願について」を相談させていただきます。生徒により二者面談または三者面談となりますが、二者面談の場合は保護者の意見も反映されますよう事前に御子様とよく話し合っておいていただけますようお願いいたします。

なお、国公立大学出願については共通テスト後に改めて面談を行う予定です。御承知おきください。

～12月行事予定～ 共通テスト対策追い込みの1カ月!

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	金	B	原付免許取得者集会	16	土		
2	土			17	日		
3	日			18	月	A	きずなの日
4	月	A		19	火	A	
5	火	A		20	水	A	
6	水	A		21	木	A	合格内定者集会
7	木	A		22	金	行事	報告会・休業前集会・大掃除
8	金	A		23	土		冬季休業開始(~1/8)
9	土			24	日		
10	日			25	月		共通テストリハーサル1日目
11	月	B		26	火		共通テストリハーサル2日目
12	火	B		27	水		
13	水	B		28	木		
14	木	B		29	金		校内完全閉鎖(~1/3)
15	金	B		30	土		
				31	日		

◎先生方からの寄稿 今月は4組担任 新海大博 先生 と 副担任 今村勇二 先生 です。

共通テストまであと50日!

新海 大博

いよいよ11月も終わり、卒業式(3/1)まであと3か月。早いな～高校生活あとそれだけ! ああ、修学旅行に行く2年生が遠く感じる…でも今は自分の事で精一杯、ですよね。かく言う私が高校生の頃、もう25年くらい前の事ですが、今の皆さんと状況はほぼ同じ。現役の頃は公募推薦を受けた直後。あの頃は他県大学の受験には情報がなく、先輩が同学部の公募推薦を受験していなければ、受験しないと分からないそんな受験でした。その後12月上旬に出た不合格で、「俺を取らないなんて損したな! 実力で受かって認めさせてやるよ!」なんて怒りのままセンター試験当日まで勉強していた記憶があります。



センター試験の点数での駆け引き後、何とか自分の志望する大学に学部を変えて出願。国立前期で力を使い果たした私は、帰宅後何故か気づくとスーパーファミコンのドンキーコングをやっていました。その時ばかりは家族の誰も私に声をかけず、なぜか弟と協力タッグでウッホウッホウッキーやっていた思い出が今でもあります。

大学受験って何でしょうね。勉強の出来を全国均一に測る、公平なものではあるとは思いますが、私は「自分に対してどれだけ拘れるか」という要素がかなりあると思います。自分が〇〇大学△△学部で納得できるか、その勝負です。他人との競争でもあるがある意味自分自身との勝負。その勝負を悔いなく現役一年でやり遂げ、納得するものを得られたら、それほど素晴らしいことはありません。その拘りは大事ですよ。ただ、よく言われるように大学名は個人に対する一つの指標。勉強の出来であってそれ以外の出来は分かりません。あなただって先生を大学名で評価しないでしょう? 大学受験、拘るだけ拘って、進学するのであれば、納得しても納得しきれなくても、その後はまた挑戦者として大学以降から広がる素晴らしい世界、友人、社会に出て、更に切磋琢磨して10~20代を謳歌してください。西高は自由な校風で、そこが私の大好きな所ですが、学力に加え学力だけで測れない力(非認知能力)もしっかり育っていると確信しています。大学受験を潜り抜け、次の世界でも活躍する皆さんを応援しています。

「人間万事塞翁が馬」

今村 勇二

私の好きな言葉です。人生の禍福は変転、極まりないものであり、とても予想することはできないので、災いも悲しむにあたらず、幸福も喜ぶには、あたらぬものという意味になります。また、禍福の繰り返しがあるから、人生は楽しいとも言えるのだとも言われています。

私には、これまでの人生で、大変だと思ったことが実はうれしいことの始まりだったり、ものすごくいいと思ったことがとんでもないことの始まりだったりした経験があります。

皆さんは今まさに大学受験という人生で一番大きな岐路に立っています。すでに合格内定をもらって喜びに満ちている人、合格内定はもらったものの第一志望ではない人、はたまた、来年の3月になっても進路が決まらず途方に暮れる人もいるかもしれません。

長い人生、いいことばかりではなく、願ったとおりにいかないことも多くあります。その時は是非、安易に喜んだり悲しんだりするのではなく、泰然として構えてください。特に、一見良くない事が起こったその時こそ、「これはチャンスかもしれない」と考えて、この言葉を思い浮かべ自分らしく淡々と歩みを進めてください。

